２０１２年４月２４日・尼崎消費者協会総会配布資料

東日本大震災の被災地の女性たちを訪ねて（PPT のまとめとして）

須田　和（すだむつみ）前女性センター・トレピエ所長
ゆるやかにつながって息長く被災地の女性をサポートする会

２０１１年５・９・１１月　３回の訪問（岩手・宮城）
つながりのあった女性たちからの案内
ネットワークによる案内、調査　だから行けた２カ月目
当事者の想いをひたすら聴く、受け止める
「プライバシー」問題
「ぜいたくだといわれるから男性（避難所の管理者）には言えないけれど
一番ほしいもの 基礎化粧品
女性用の下着が届くが自分に合うサイズがない
家族や相続の問題も　先が見えないことが最も不安
職員たちのがんばり/避難所ごとに異なる待遇
つながって動くこと、一人で考え、動く時間　どちらも大切
市職員の想い　尼崎とのつながり
「阪神淡路のときはどうでしたか？・・・」
避難所とは・・・命が助かったことを感謝しつつ、苦労を共有しながら、
復興と自立へ向けて準備をするところ
→　避難所運営者・支援者のマインドが大切
→　しかし支援者の疲れ
バーンアウトしないでほしい
→　支援者・被災者とも心のケアが必要

- 「忘れない」
- 話されることを聴く　受け止める　聴く
- 支援のかたちは　いろいろある
- 訪問・産品を買う・支援している人を応援する
- 支援と「受援」
  いつかわが町が災害に襲われた時のために
- 対等な関係だから、支援と受援の関係が続く
- 対等な関係は信頼関係をつくることから
- 性別で役割を固定してしまうこと
- 自分の辛さや被害を過小評価してしまう
- 自尊感情が低下する
- 多くの女性たちは日常と同様、 自分のことはすべて後回しとなり
  無理と疲労が積み重なる
- 男性たちは、辛さを口に出せない・・・ その結果

２０１２年２月福島県郡山市・二本松市で